

地域と連携し、子どもの成長を支援するPTA活動

犬山市立城東中学校PTA

1 はじめに

犬山市立城東中学校は、昭和22年に開校した。犬山市の北東部に位置し、周囲は豊かな自然に囲まれており、静かな環境の中で学習に集中できる立地が特徴である。隣接する小学校を含め市内の3つの小学校区から成り立っている。生徒数477名、学級数18学級（うち特別支援学級3学級）の中規模校で、PTA会員数は433名である。

「知恵を蓄え、感性を磨き、創造的に行動できる人間の育成を目指す」という教育目標のもと、生徒同士、生徒と教職員、教職員相互の温かな人間関係の中で、「人間力」を育むことを目指して教育活動を進めている。



【城東中学校校舎】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

子どもたちの健全な育成のためには、学校・家庭・地域が連携して教育支援や生徒支援に取り組んでいくことが重要である。そこで、本校PTAでは、「地域と連携し、心豊かで、たくましい生徒を育てよう」という目標を立てた。地域と協働して生徒の見守りや支援をするとともに、家庭教育力の向上を目指し、研究に取り組んでいくことにした。

(2) PTA組織と主な活動

本校PTA組織は、会長をはじめとするPTA役員8名（会長1名、副会長2名、会計1名、書記1名、監査3名）と、文化・厚生委員会、研修委員会、常任委員会、校外活動委員会の4つの委員会で構成されている。

各委員会の主な活動内容は以下の通りである。

文化・厚生委員会…リサイクルバザー、給食試食会の企画・運営等
研修委員会…学校保健委員会などの研修の企画・運営等
常任委員会…地区の取りまとめ、次年度の役員・委員の選定等
校外活動委員会…登校指導、通学路の危険箇所の見直し等

3 実践活動の概要

(1) P T A資源回収

P T A主催で、5月と12月の年2回、P T A、生徒、教職員が協力して資源回収を行っている。生徒は、自分の住んでいる地区を回って回収作業を行う。事前に回覧板で資源回収を案内し、地域住民にも協力を求めている。また、本校の回収日に合わせて多数の資源を準備してくれる家庭も多くある。資源回収を行うことで、地域住民との協働による環境美化や資源の有効活用に貢献している。

昨今、さまざまな場所にリサイクルステーションが設置され、資源回収の実施の意義付けが薄れつつある。その一方で、地域に住む高齢の方からは、資源回収で生徒が玄関先まで資源を取りに来た際に、生徒と触れ合うことを心待ちにする声が多数聞かれる。資源回収は、単なるリサイクル活動にとどまらず、生徒が地域住民と触れ合うという意義を今後も大切にしていきたい。



【P T A資源回収】

(2) リサイクルバザー

文化・厚生委員会が企画・運営を行うリサイクルバザーを11月の合唱発表会の日に合わせて行っている。この取組は、主に卒業生の家庭を中心に提供された制服、体操服、体育館シューズ、部活動用品を校内に保管し、これらを販売できる状態に整えて販売するものである。リサイクルバザーの実施日が近づく、バザー用品を募集するチラシを作成し、P T Aから地区の町会長に依頼して回覧板で地域住民に周知している。毎年、多数の保護者が開始時刻前から列を作って並ぶほどの盛況ぶりである。当日の販売も文化・厚生委委員会が行っており、P T A会員同士の交流を深める貴重な機会となっている。



【リサイクルバザー】

(3) 給食試食会・学校保健委員会

毎年6月に、文化・厚生委員会を中心に給食試食会を、研修委員会を中心に学校保健委員会と同日開催している。

給食試食会では、食の大切さや学校給食への理解を深める目的で、P T A会員に学校で給食を食べてもらい、その後、栄養職員の講話を聞く

活動を行っている。今年度は、栄養職員から、中学生に必要な栄養素の説明や、家庭の食事で塩分の摂り過ぎを防ぐために、だしや香味を加えるなどの家庭でできる工夫を聞いた。学校保健委員会では、タブレットを使ってウェブ上で「食の栄養バランスチェック」を行い、朝食と夕食の栄養バランスを確認した。その後、学校医から生徒の健康状況について説明を聞いた。この二つの取組は、子どもが健やかに育つために家庭でできることについて意識を高めるよいきっかけとなっている。



【学校保健委員会】

(4) 登校指導と通学路危険箇所の発見

本校は、生徒の約7割が自転車通学である。近年、自転車の交通ルールが厳格化しており、生徒に交通ルールやマナーを指導する必要性が高まっている。登校時には、毎朝地域の見守り隊の方々が、交通量の多い交差点に立ち、生徒を見守っている。地域の方が見守ることで、交通安全の確保だけでなく、生徒の心の安定にもつながっている。



【登校指導】

P T Aとしても、地域と連携し

て交通指導を行うべく、校外活動委員会を中心に当番を決め、年3回交通量の多い交差点に立ち、登校時の見守りを行っている。これにより、通学路における危険箇所をP T Aで共有することができている。

また、校外活動委員会を中心に、夏休み中に通学路の安全点検を行い、通学路の危険箇所を調べて提出してもらっている。これを通学路改善要望として取りまとめて市に報告をしている。その結果、毎年通学路の危険箇所の改善が市によって進められている。

(5) コミュニティとの関わり

校区には、城東小学校区コミュニティ推進協議会（以後「コミュニティ」とする）という地域の組織がある。小学校区を主体とした組織ではあるが、中学校とも連携を図っている。年間2回、通学路の草刈りをコミュニティ主催で行っている。この活動にP T Aも参加している。約1時間の活動ではあるが、草が伸びて通りにくくなっている通学路の環境

を整えることで、生徒の登下校の安全を確保できている。

また、体育祭当日には、コミュニティの方に協力を依頼し、来校する車の誘導を手伝ってもらっている。これにより、PTA役員の活動の負担が少なくなっており、とても助かっている。

(6) 地域とともに学校の未来を考える

本校は、令和9年度から校舎の改修工事が始まる予定である。今の学校のよさを生かしながら、さらによりよい学校にしたいという思いで、校舎の改修計画を進めている。「地域とともにある学校」として、地域が学校に求めるものは何かを聞くことが重要だと考えた。また、工事が始まると、工事車両の通行など地域に理解を得ることも不可欠である。

そこで、教育委員会が主催した校舎改修ワークショップに地域住民やPTAも参加した。このワークショップでは、「今の城東中学校で残したいよさ」や、「今後の中学校がどうあってほしいか」といった内容を付箋紙に書き出して話し合った。この活動により、地域は学校に対して「さらに開かれた学校であってほしい」といった思いをもっていることが分かった。地域の中学校に対する期待や要望を知るよい機会となった。



【通学路の草刈り】



【改修に関するワークショップ】

4 おわりに

城東中学校PTAは、地域と協働して生徒の見守りや支援をするとともに、家庭教育力の向上を目指し、研究に取り組んできた。研究を通して地域との関わりの中で子どもたちの成長を見守ることの大切さを改めて実感できた。今後の課題は、地域学校協働活動のさらなる推進である。地域学校協働本部を核として、地域の文化団体や企業を巻き込みながら生徒の活動を支える方法を模索していきたい。

地域との連携は、子どもたちの成長を支えるだけでなく、地域全体の活性化にもつながる。城東中学校PTAは、これからも地域とともに歩み、子どもたちの未来を育む環境づくりに尽力していきたい。